

鉱工業指数と第3次産業活動指数から見た 平成27年4～6月期の産業活動



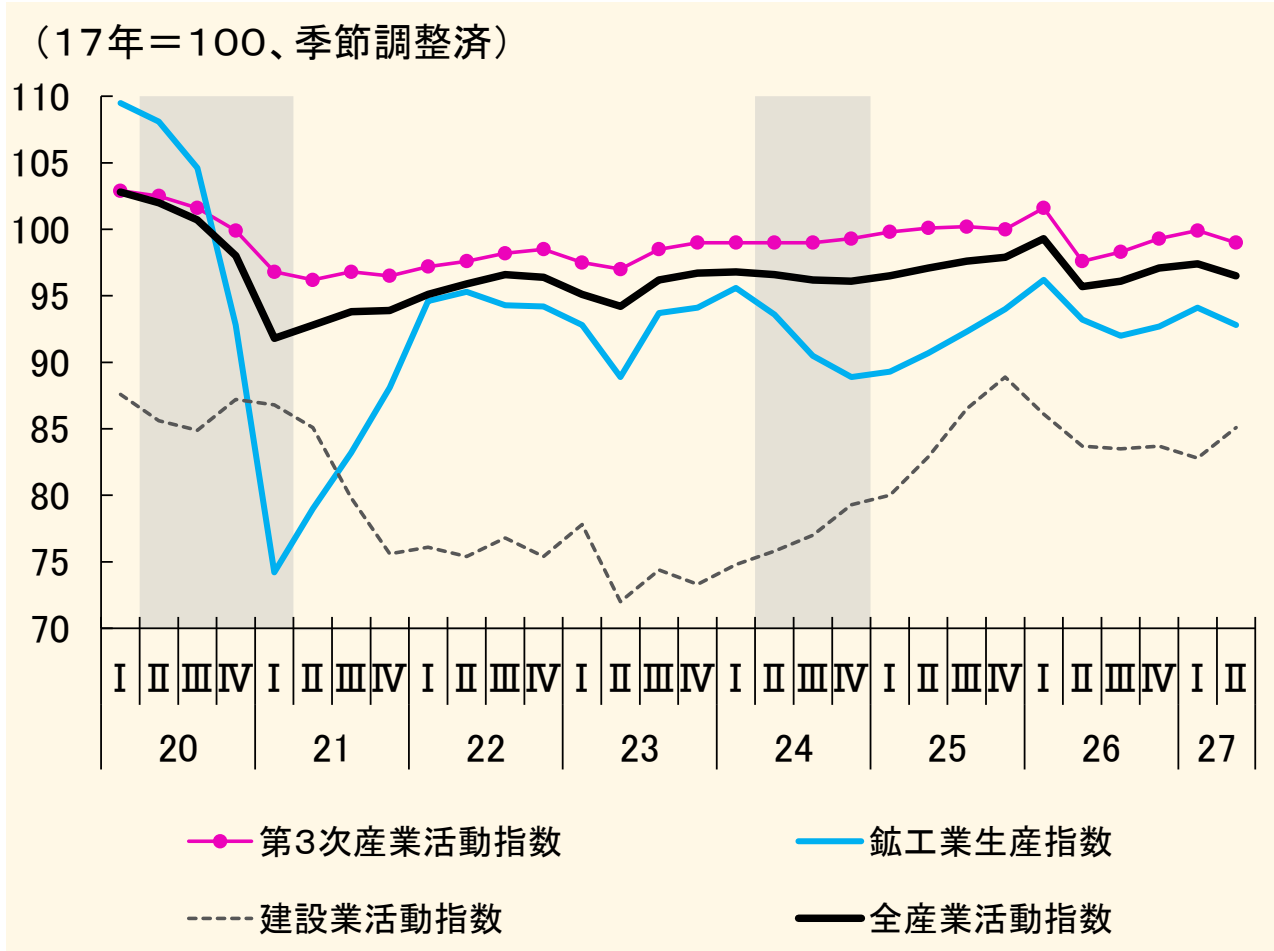
本稿における留意事項

1. 本稿における年の表示は和暦であり、元号は特記しない限り原則として平成である。
2. 四半期別伸び率寄与度は、特記しない限り前期比伸び率に対する寄与度である。なお、個々の系列毎に季節調整を行っているため、内訳の寄与度の積み上げと全体の伸び率は一致しないことがある。

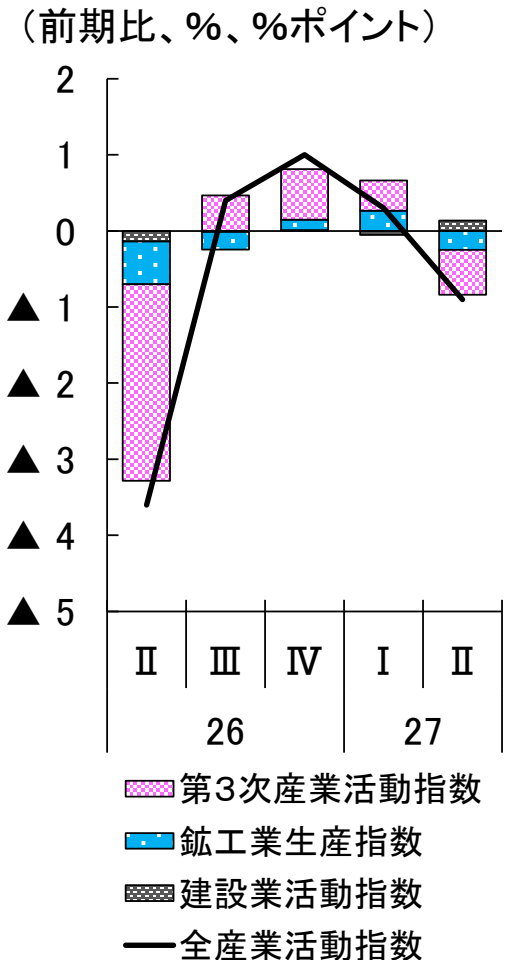
第2四半期の全産業活動

・平成27年4～6月期は、前期比▲0.9%と4期ぶりの低下。建設業活動が上昇となったものの、第3次産業活動、鉱工業生産が低下。

全産業活動指数の推移

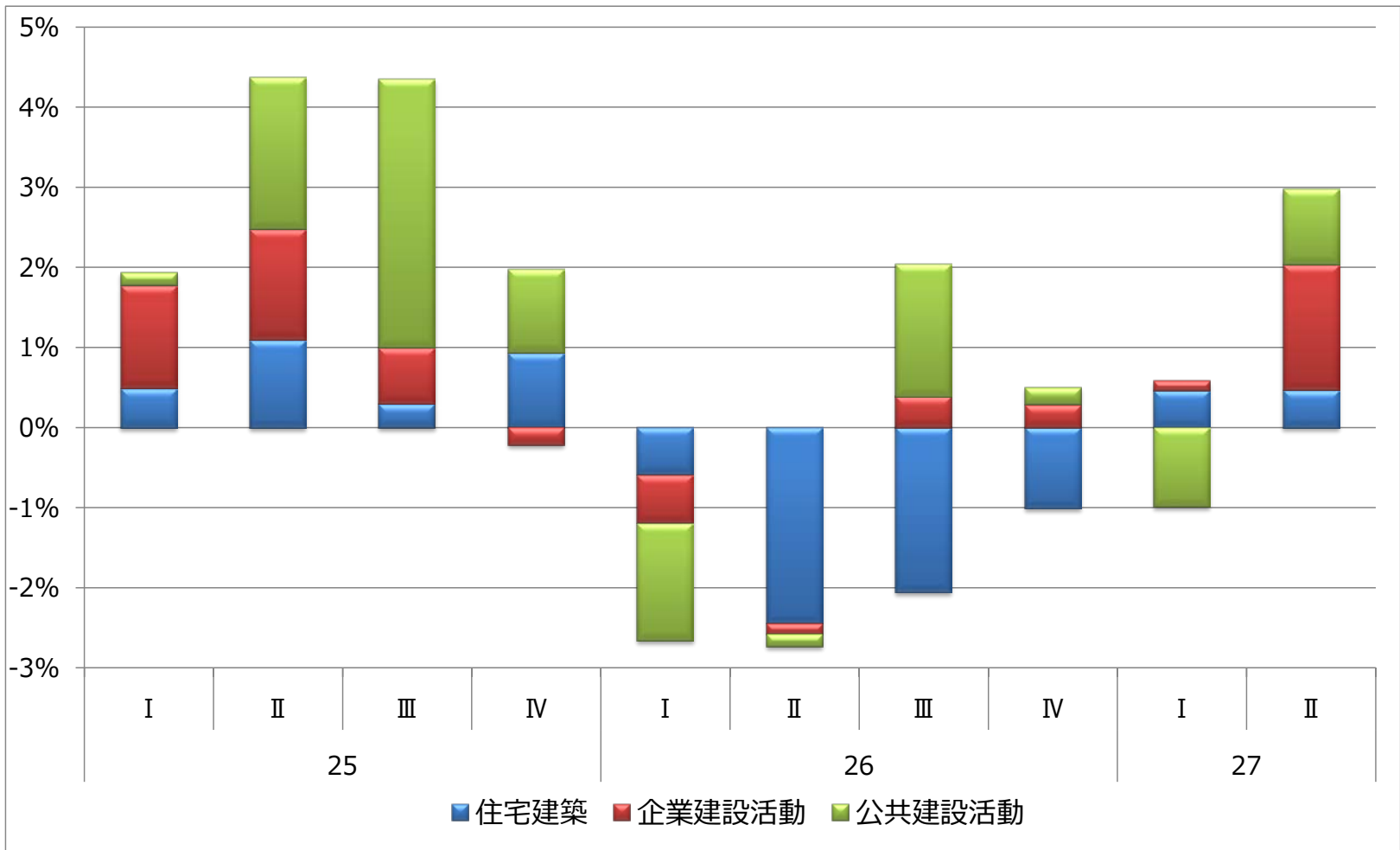


(注)シャドー部分は景気後退局面。
 (資料)経済産業省「全産業活動指数」より作成。



第2四半期の建設業活動指数

平成27年4～6月期は、前期比2.8%と2期ぶり上昇。企業建設活動(民間非住宅、民間土木)、公共建設活動、住宅建築の3分野ともに前期比上昇。

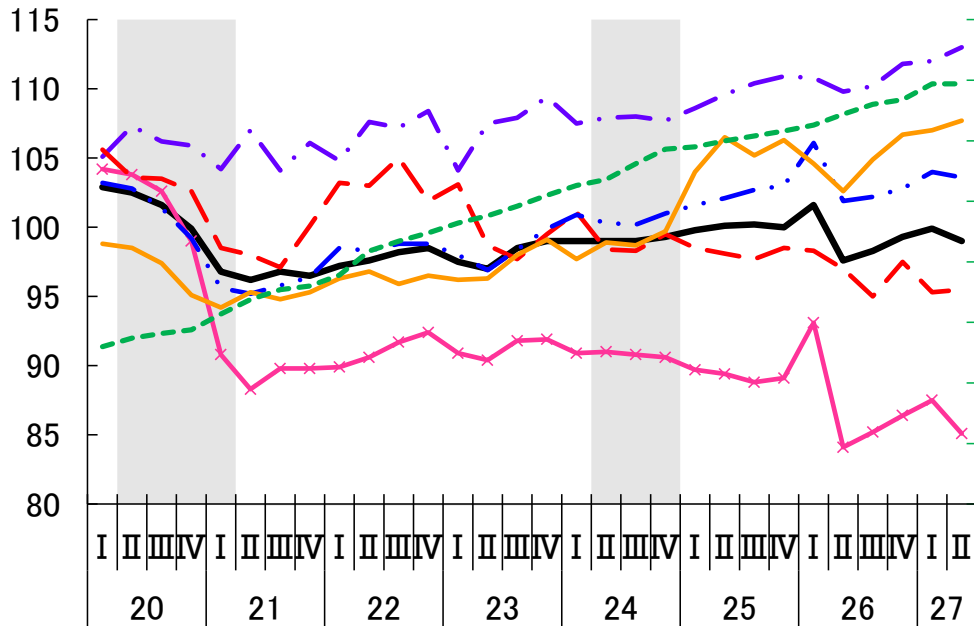


第2四半期の第3次産業活動

- 平成27年4～6月期は、前期比▲0.9%と4期ぶりの低下。業種別にみると、卸売業、小売業が4期ぶりの低下となるなど、大分類13業種のうち3業種が低下。

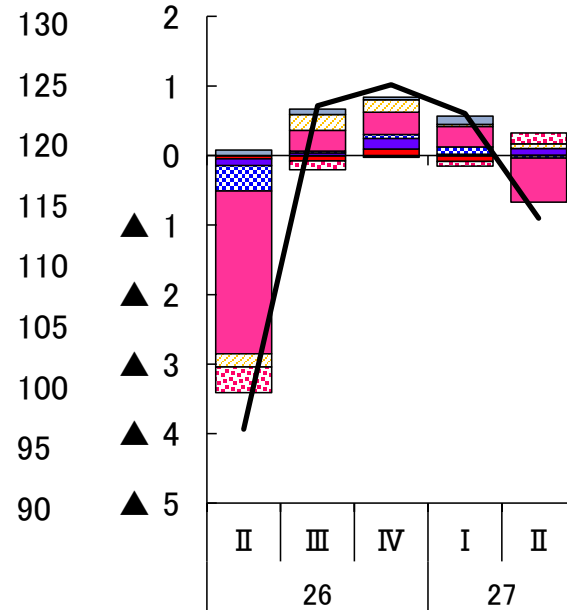
第3次産業活動指数主要業種の推移

(17年=100、季節調整済)



- 第3次産業総合
- 情報通信業
- 運輸業、郵便業
- 医療、福祉(右軸)
- × 卸売業、小売業
- 電気・ガス・熱供給・水道業
- 金融業、保険業

(前期比、%、%ポイント)



- ▲ 1
- ▲ 2
- ▲ 3
- ▲ 4
- ▲ 5
- その他
- 金融業、保険業
- 運輸業、郵便業
- 電気・ガス・熱供給・水道業
- 医療、福祉
- 卸売業、小売業
- 情報通信業
- 第3次産業総合

(注)シャド一部分は景気後退局面。

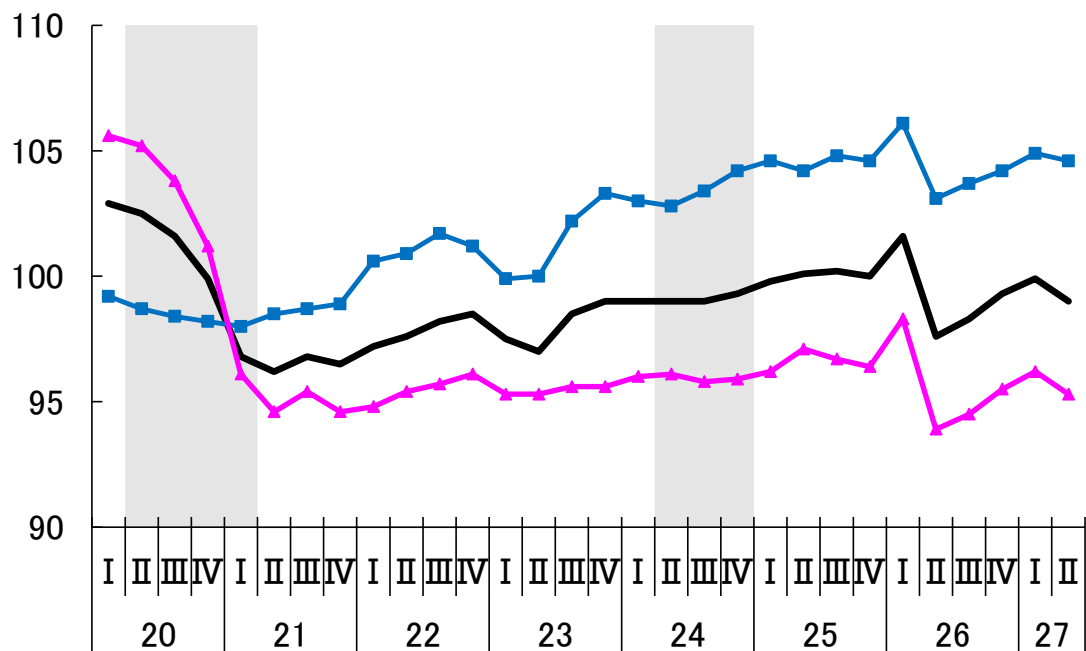
(資料)経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

「 広義対個人サービス と 広義対事業所サービスの動向」

- 平成27年4～6月期は、広義対事業所サービスが前期比▲0.9%、広義対個人サービスが同▲0.3%とともに4期ぶりの低下。

広義対個人サービスと広義対事業所サービス指数の推移

(17年=100、季節調整済)

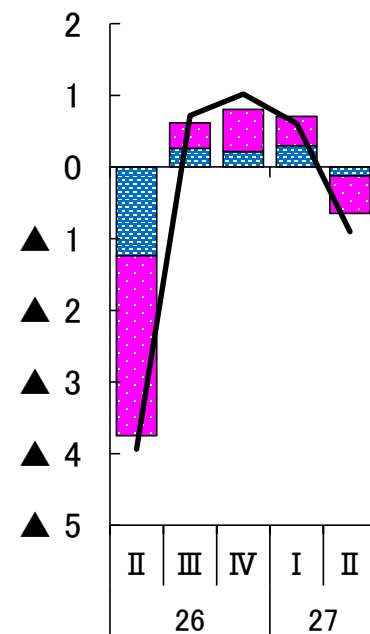


— 第3次産業総合

—■ 広義対個人サービス

—▲ 広義対事業所サービス

(前期比、%、%ポイント)



—▲ 広義対事業所サービス

—■ 広義対個人サービス

— 第3次産業総合

(注)シャド一部分は景気後退局面。

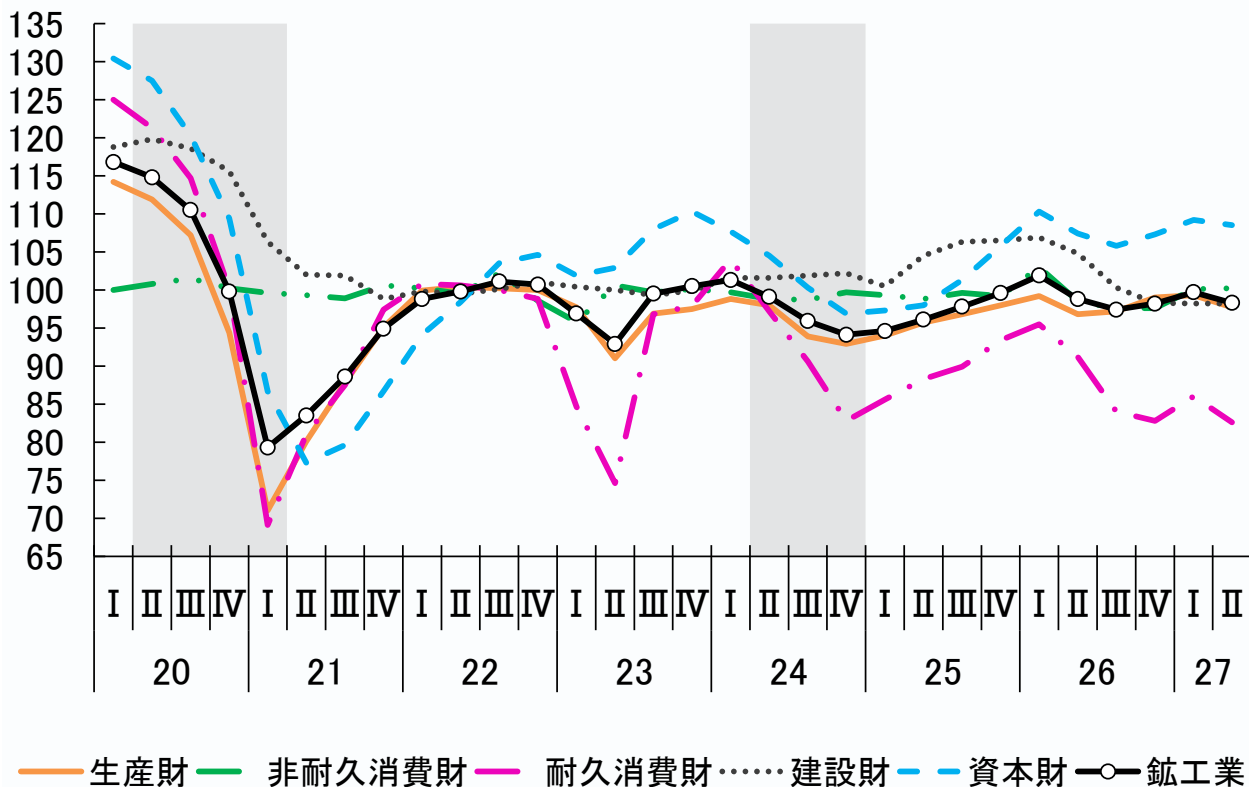
(資料)経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

第2四半期の鉱工業生産

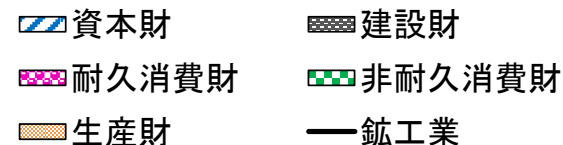
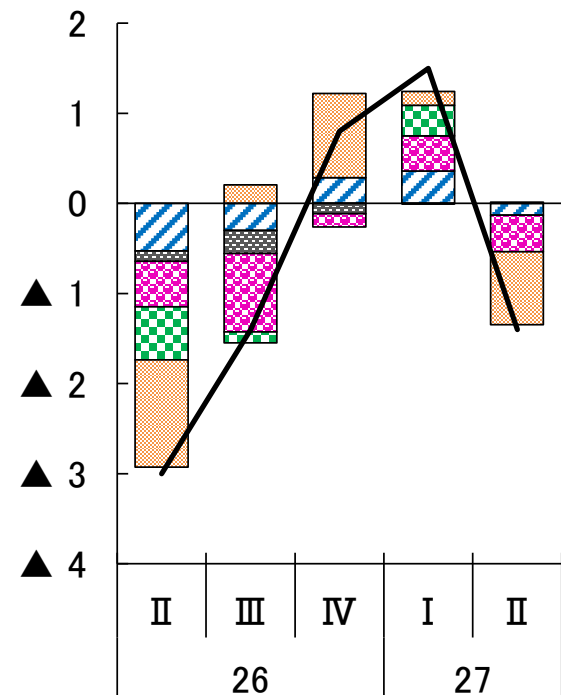
- ・平成27年4～6月期は、前期比▲1.4%と3期ぶりの低下。
- ・財別にみると、生産財などが低下。

鉱工業生産指数(財別)の推移

(22年=100、季節調整済)



(前期比、%、%ポイント)



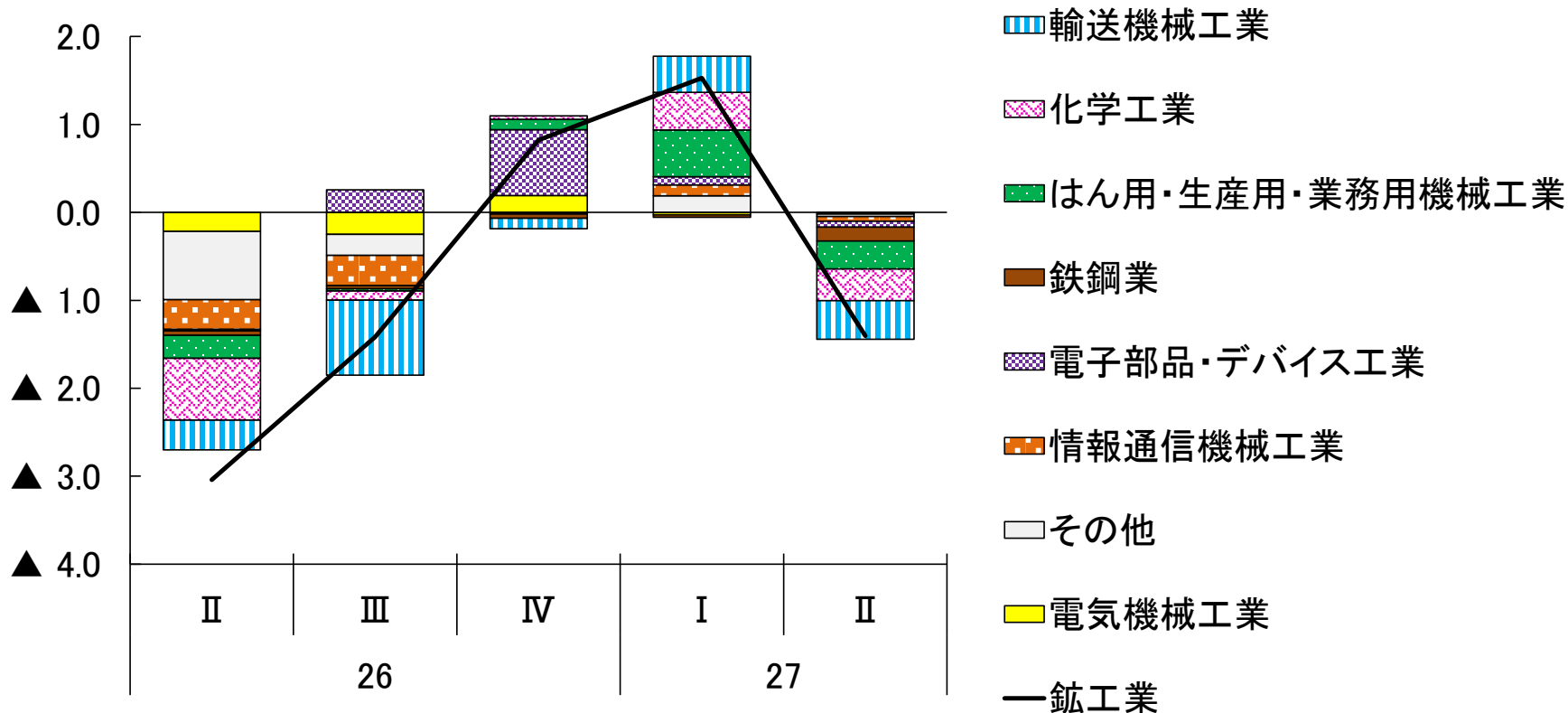
(注)シャドー部分は景気後退局面。
 (資料)経済産業省「鉱工業指数」より作成。

第2四半期の業種別の生産動向

- 業種別にみると、輸送機械工業、化学工業、はん用・生産用・業務用機械工業などが低下。

鉱工業生産指数(業種別)の前期比、伸び率寄与度の推移

(%、%ポイント)



(注)その他には、非鉄金属工業、金属製品工業、窯業・土石製品工業、石油・石炭製品工業、プラスチック製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業、繊維工業、食料品・たばこ工業、その他工業、鉱業が含まれる。

(資料)経済産業省「鉱工業指数」より作成。

第2四半期の鉱工業生産を大きく動かした品目

全体

		品目名	前月比	寄与率
○ 鉱工業生産を上昇方向に引っ張った3品目	1位	計測機器	11.5%	7.9%
	2位	民生用電気機械	8.8%	7.8%
	3位	電子計算機	6.8%	5.2%
○ 鉱工業生産を低下方向に引っ張った3品目	1位	乗用車	▲ 5.9%	▲ 31.6%
	2位	自動車部品	▲ 4.1%	▲ 19.5%
	3位	化粧品	▲ 6.7%	▲ 12.9%

業種別

		業種・品目名	前月比	寄与率
○ 鉱工業生産を上昇方向へ引っ張った3業種の中で上昇への影響度が大きい2品目	1位の業種	金属製品工業	0.1%	0.3%
	品目	建築用金属製品	2.4%	1.7%
	2位の業種	石油・石炭製品工業	0.2%	0.3%
	品目	石油製品	0.1%	0.1%
			0.0%	0.0%
	3位の業種	鉱業	1.1%	0.2%
○ 鉱工業生産を低下方向へ引っ張った3業種の中で低下への影響度が大きい2品目	1位の業種	輸送機械工業	▲ 2.3%	▲ 31.4%
	品目	乗用車	▲ 5.9%	▲ 31.6%
		自動車部品	▲ 4.1%	▲ 19.5%
	2位の業種	化学工業	▲ 2.9%	▲ 25.5%
	品目	プラスチック	▲ 2.6%	▲ 2.7%
		塗料・印刷インキ	▲ 2.8%	▲ 1.3%
	3位の業種	はん用・生産用・業務用機械工業	▲ 2.1%	▲ 22.7%
	品目	化学機械	▲ 53.2%	▲ 11.0%
	金型	▲ 15.4%	▲ 6.8%	

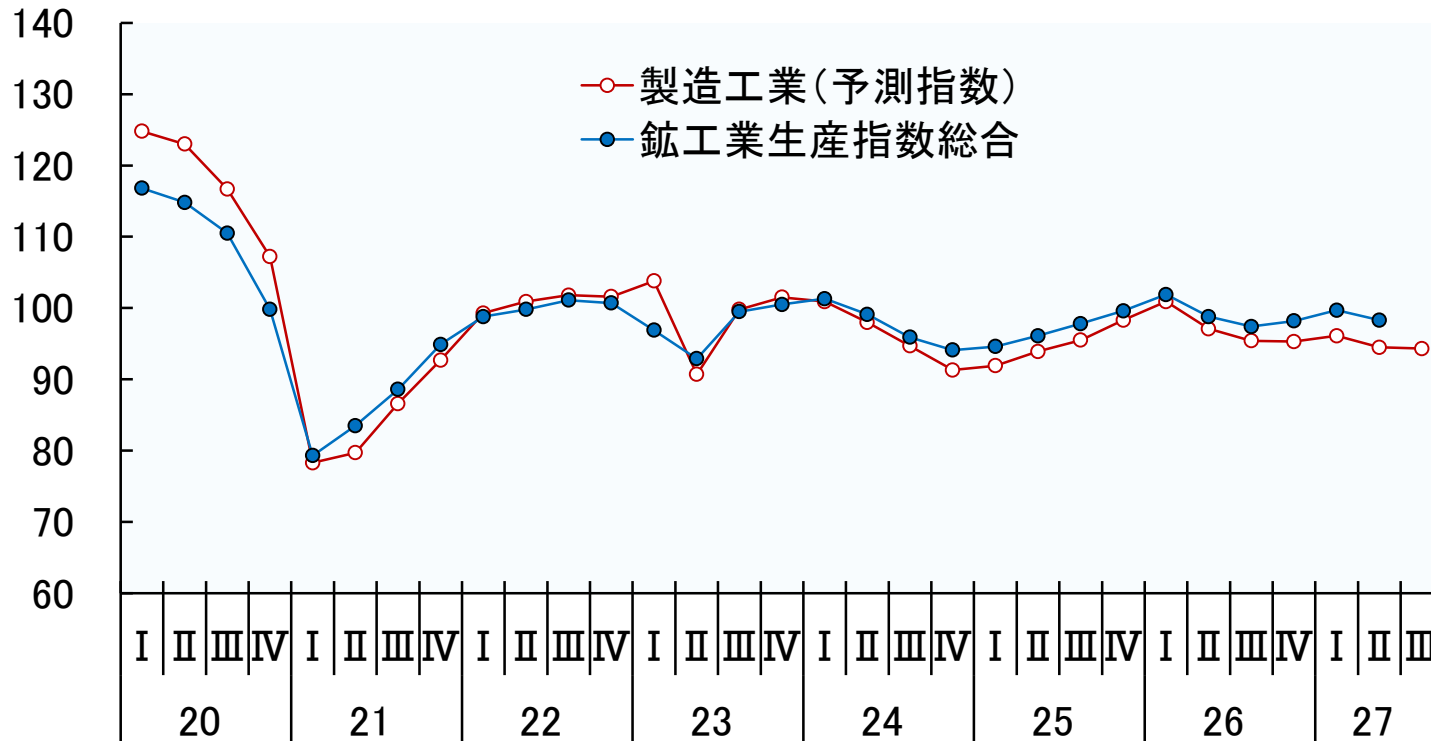
寄与率： 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い
全93業種の寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら▲100%になる

第3四半期の生産予測

- 来期(平成27年7~9月期)の予測指数をみると、前期比▲0.2%と2期連続の低下が見込まれる。

鉱工業生産指数と予測指数の推移

(22年=100、季節調整済)



(注) 月次で当該月を含めた前後3か月分の指数値が公表される予測指数を四半期ベースに加工している。今期においては、来期の予測指数として、8月調査の前月(7月)実績、当月(8月)見込み及び翌月(9月)見込みの平均値を用いた。

(資料) 経済産業省「鉱工業指数」より作成。

第3四半期の業種別生産予測

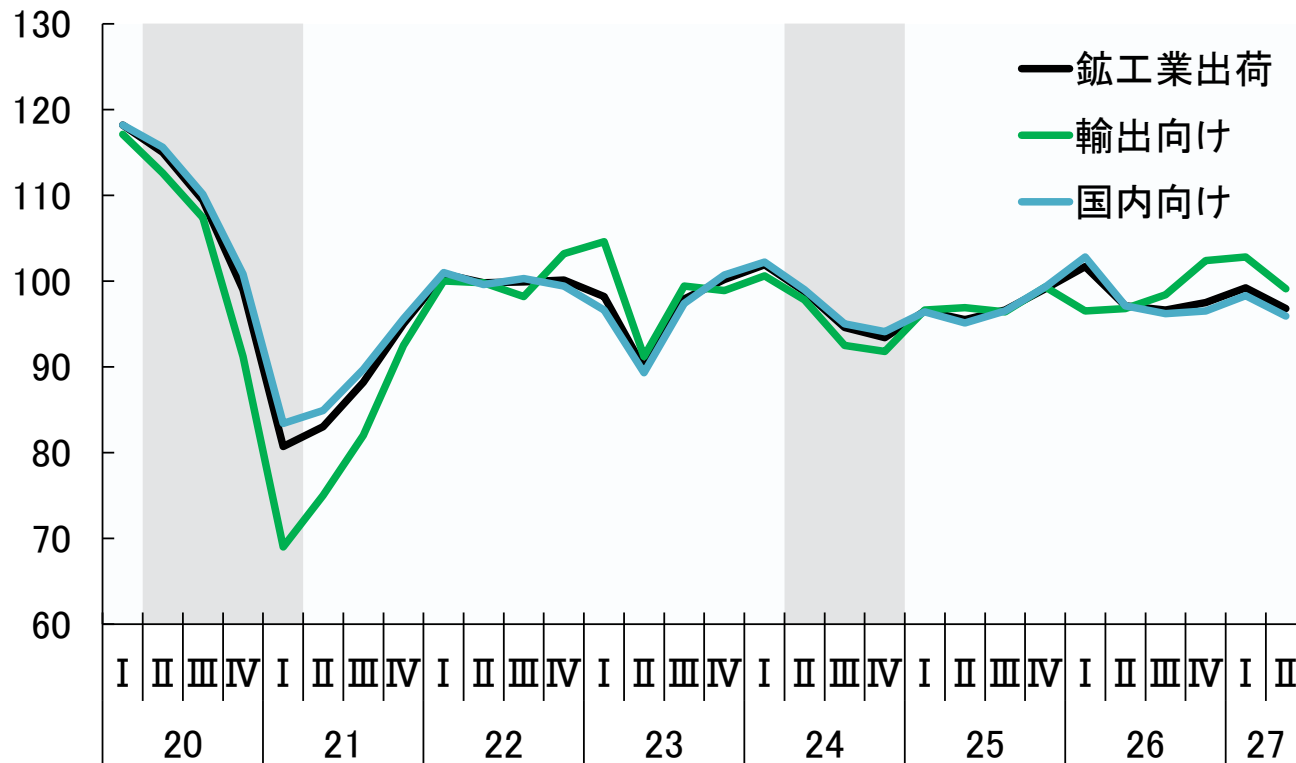
	平成27年7-9月期 生産指数 前期比(%)予測	生産と予測の変化の方向 これまで(過去29期分)の一致率 (%)
鋳工業	▲ 0.2	89.7
鉄鋼業	▲ 2.3	89.7
非鉄金属工業	0.8	58.6
金属製品工業	4.7	62.1
はん用・生産用・業務用機械工業	▲ 3.6	93.1
電子部品・デバイス工業	▲ 2.4	89.7
電機機械工業	▲ 1.0	79.3
情報通信機械工業	3.5	93.1
輸送機械工業	0.6	93.1
化学工業	1.9	75.9
パルプ・紙・紙加工品工業	0.9	79.3
その他	▲ 0.6	75.9

第2四半期の鋳工業出荷

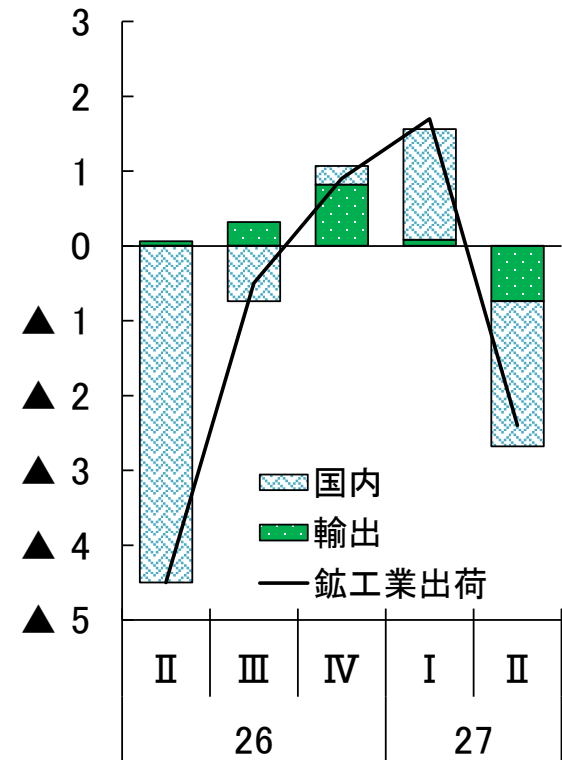
・平成27年4～6月期は、前期比▲2.4%と3期ぶりの低下。内外需別にみると、国内向けは3期ぶり、輸出向けは5期ぶりの低下。

鋳工業出荷指数に対する輸出向け・国内向け出荷の推移

(22年=100、季節調整済)



(前期比、%、%ポイント)



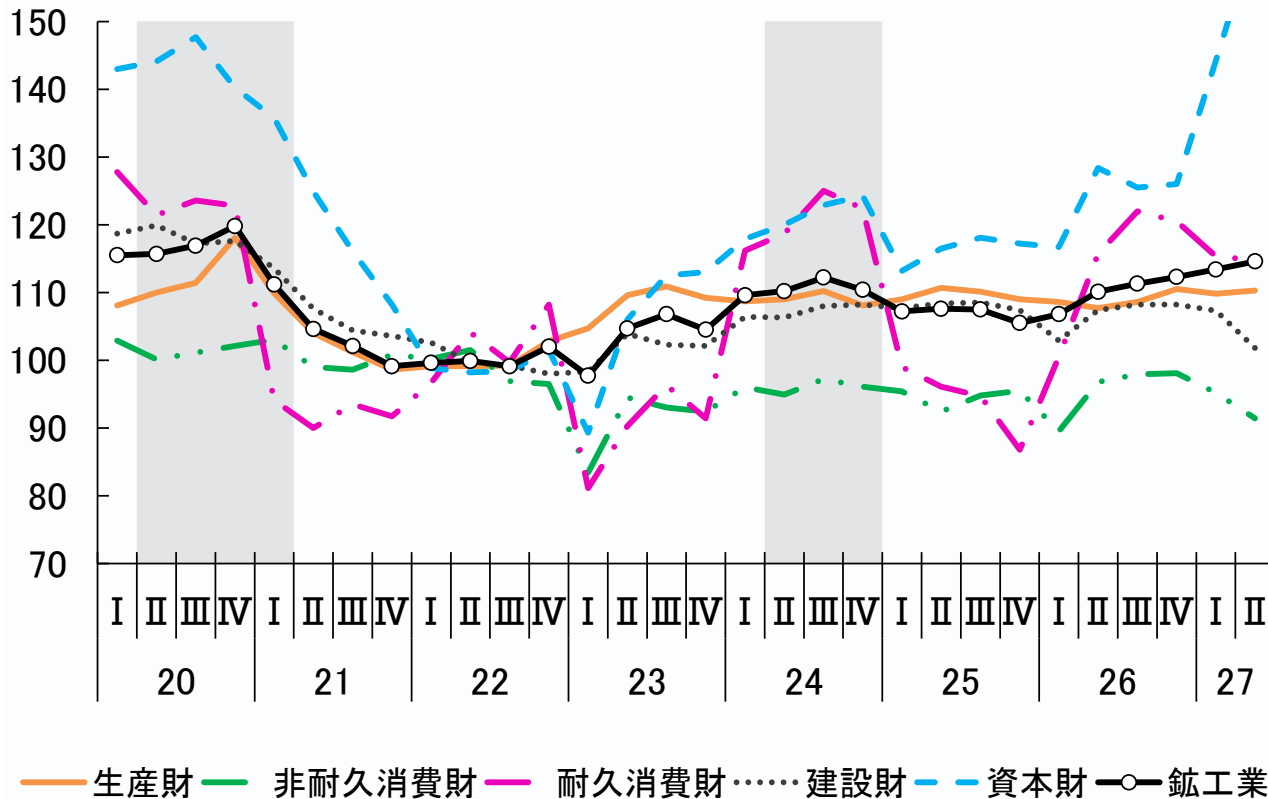
(注)シャドー部分は景気後退局面。
(資料)経済産業省「鋳工業出荷内訳表」より作成。

第2四半期末の鉱工業在庫の状態

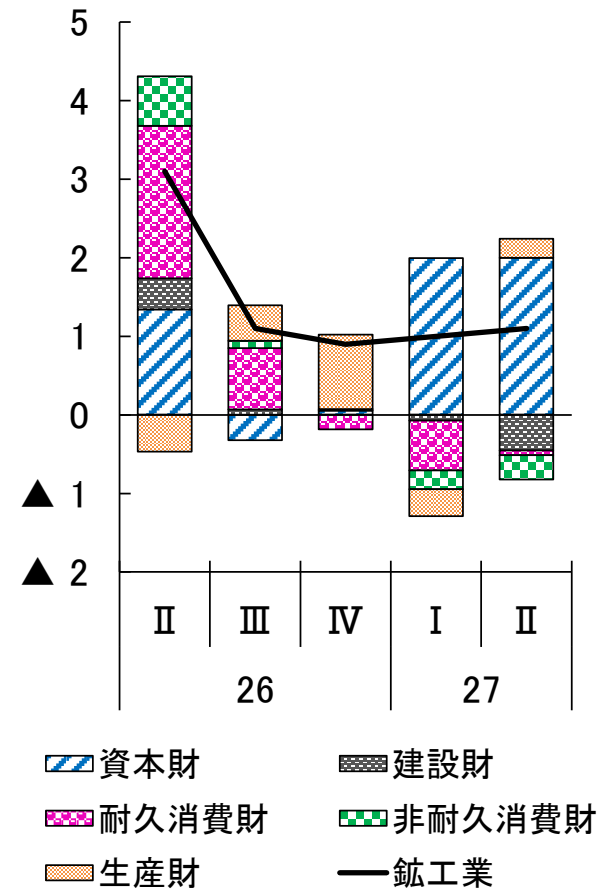
- ・平成27年4～6月期は、前期末比1.1%と6期連続の上昇。
- ・財別にみると、資本財などが上昇。

鉱工業在庫指数(財別)の推移

(22年=100、季節調整済)



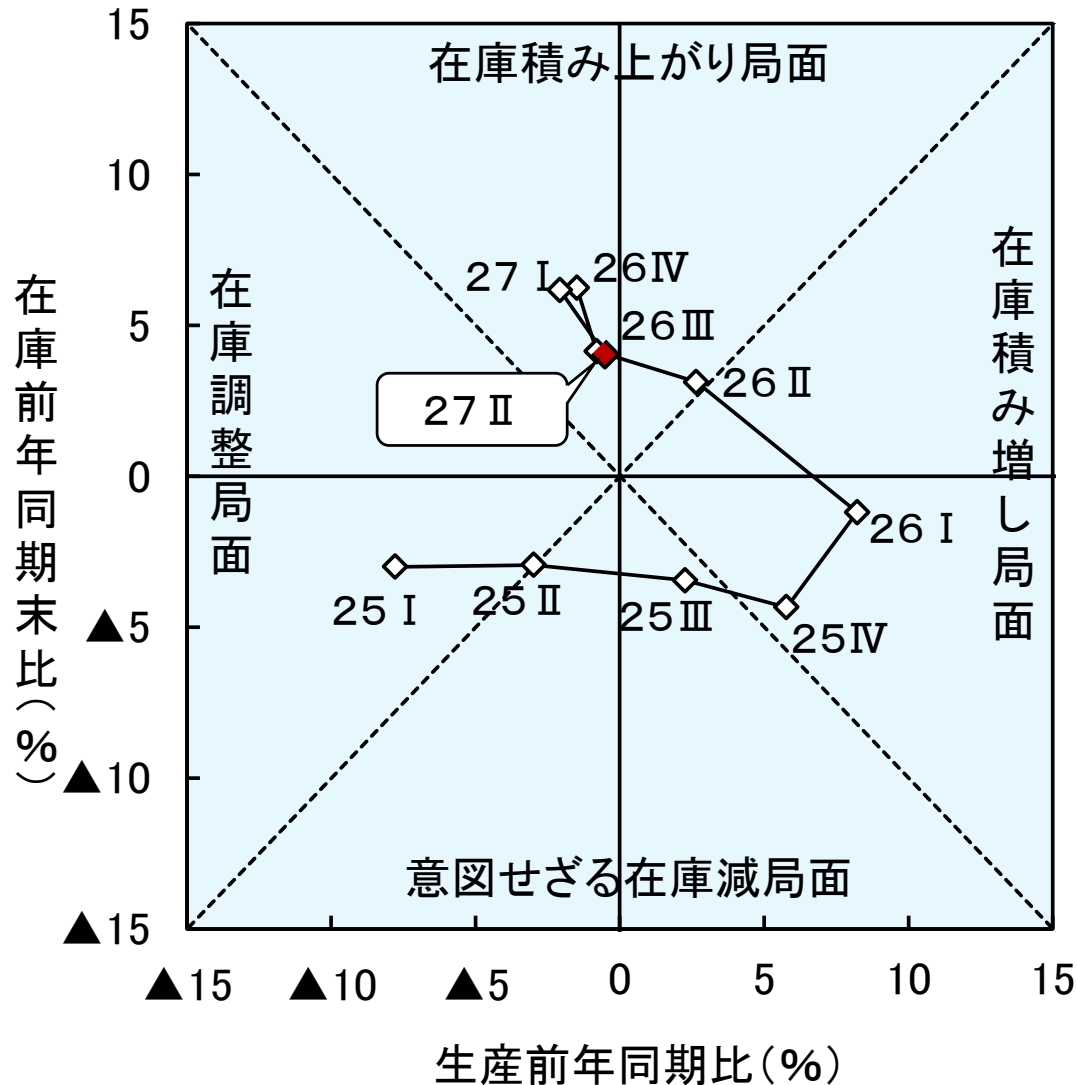
(前期比、%、%ポイント)



(注)シャドー部分は景気後退局面。
 (資料)経済産業省「全産業活動指数」より作成。

第2四半期末までの在庫循環図

- 在庫循環をみると、平成27年4～6月期は、引き続き「在庫積み上がり局面」。

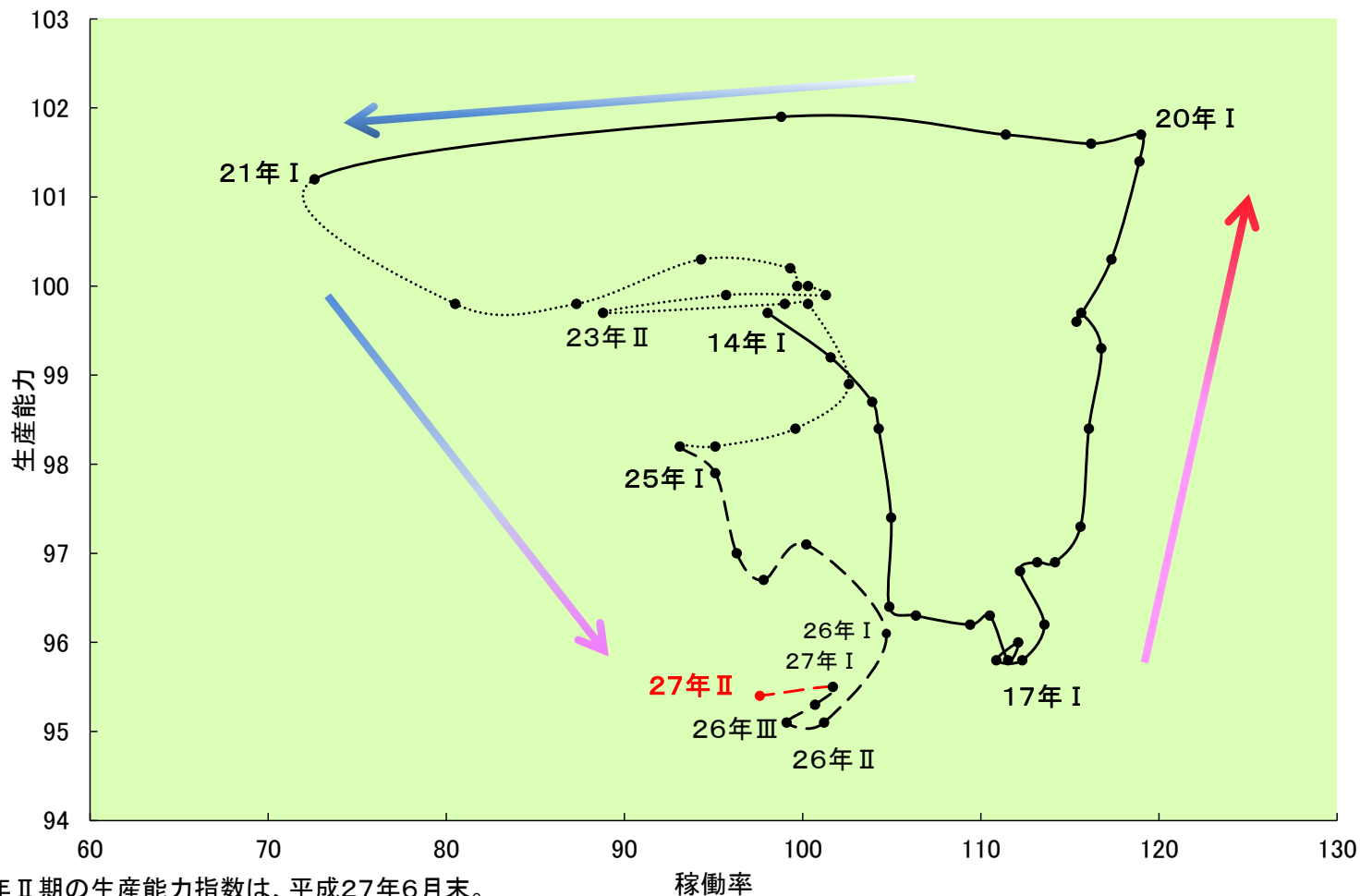


(資料)経済産業省「鉱工業指数」より作成。

生産能力・稼働率指数の「循環的」動き

- 平成27年4～6月期の生産能力指数(期末)は、95.4(前期比▲0.1%)と4期ぶりの低下、稼働率指数は97.6(同▲4.0%)と3期ぶりの低下となった。

製造工業生産能力指数－稼働率指数の循環関係(22年=100、季節調整済)



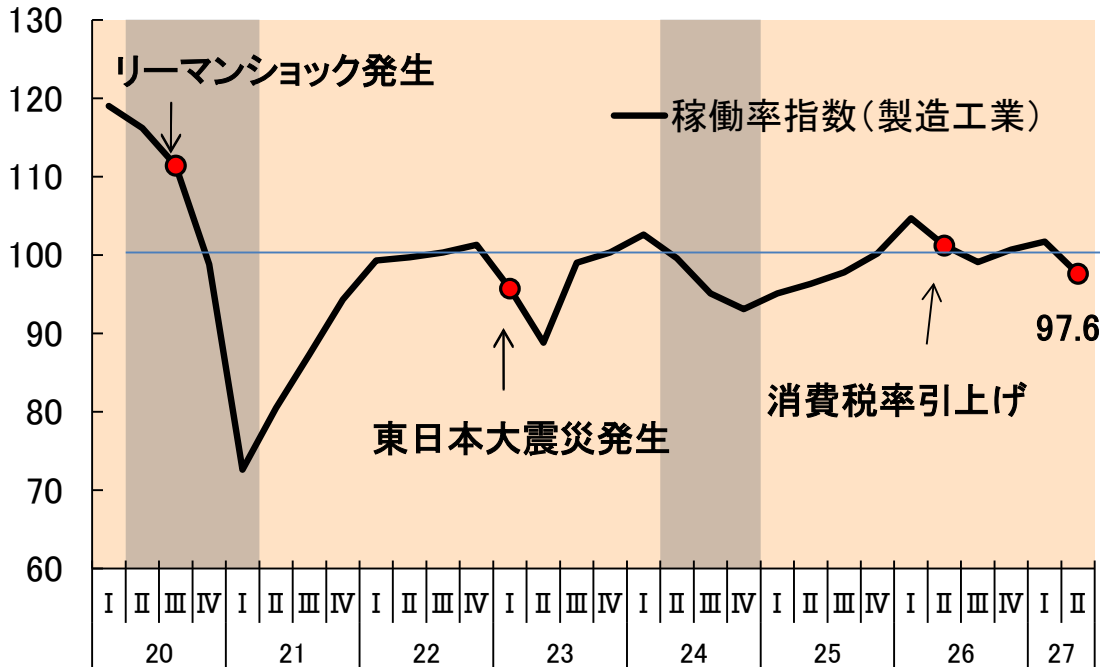
(注) 27年Ⅱ期の生産能力指数は、平成27年6月末。
 (資料) 経済産業省「製造工業生産能力・稼働率指数」より作成。

第2四半期の稼働率

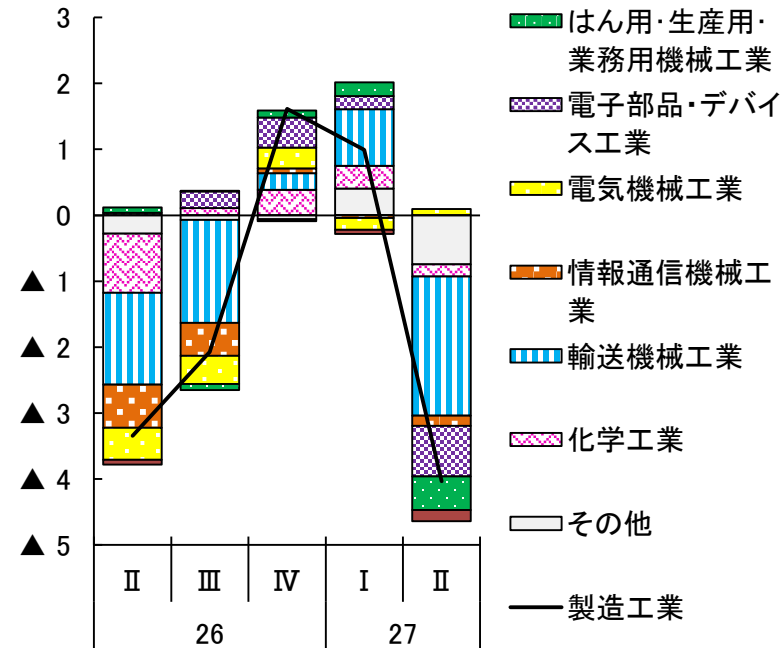
- 平成27年4～6月期の製造工業稼働率指数は97.6(前期比▲4.0%)と3期ぶりの低下。業種別でみると、輸送機械工業や電子部品・デバイス工業などが低下。

製造工業稼働率指数の推移

(22年=100、季節調整済)



(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



(注) 1. 製造工業稼働率指数とは、月々の製造工業の稼働率を基準年(現在は平成22年)の12か月平均=100として指数化したもの。

2. シャド一部分は景気後退局面。

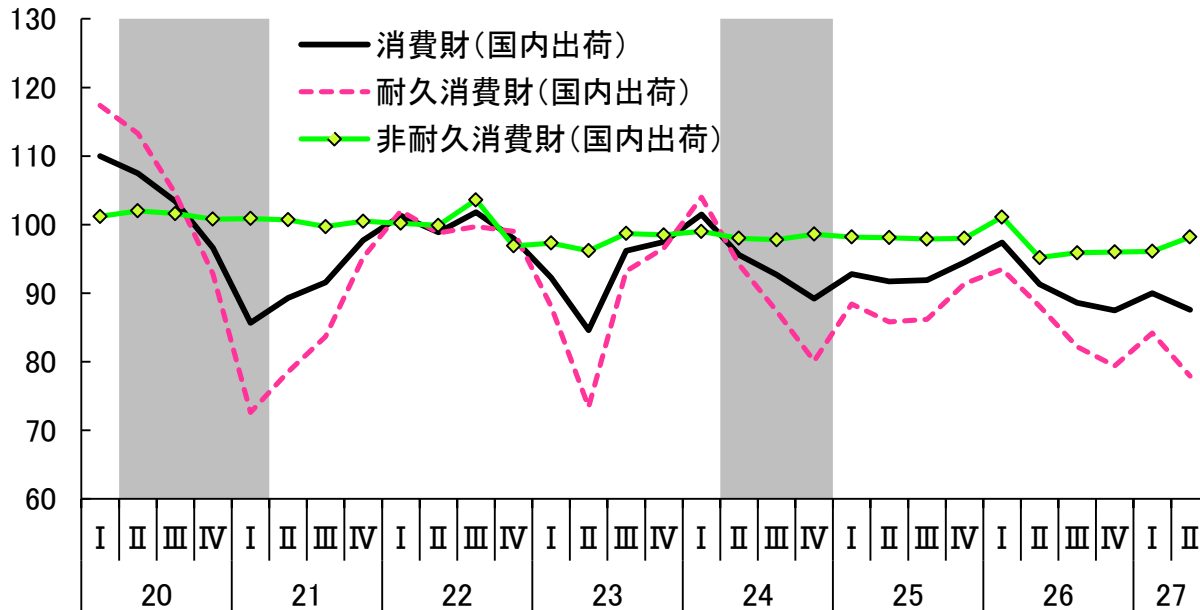
(資料) 経済産業省「製造工業生産能力・稼働率指数」より作成。

第2四半期の消費財の出荷動向

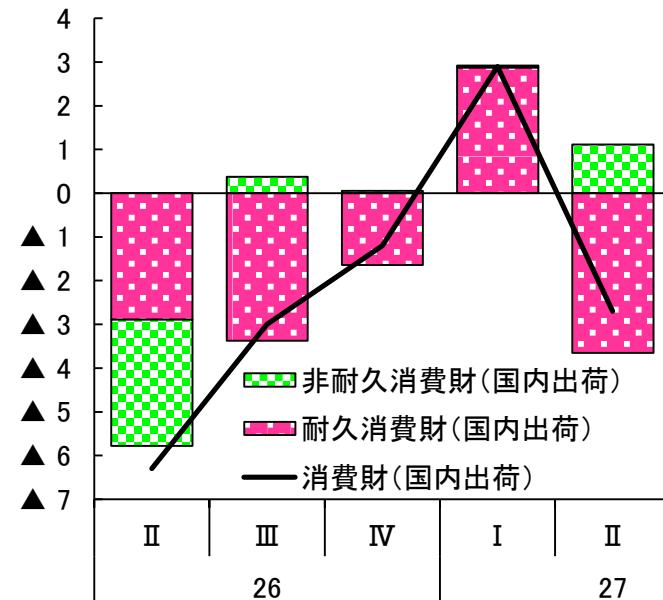
- ・平成27年4～6月期の消費財(国内向け出荷)は、87.6(前期比▲2.7%)と2期ぶりの低下となった。
- ・内訳をみると、非耐久消費財(国内向け出荷)は4期連続の上昇となったものの、耐久消費財(同)は2期ぶりの低下となっている。

「耐久消費財」と「非耐久消費財」の国内向け出荷の推移

(22年=100、季節調整済)



(前期比、%、%ポイント)



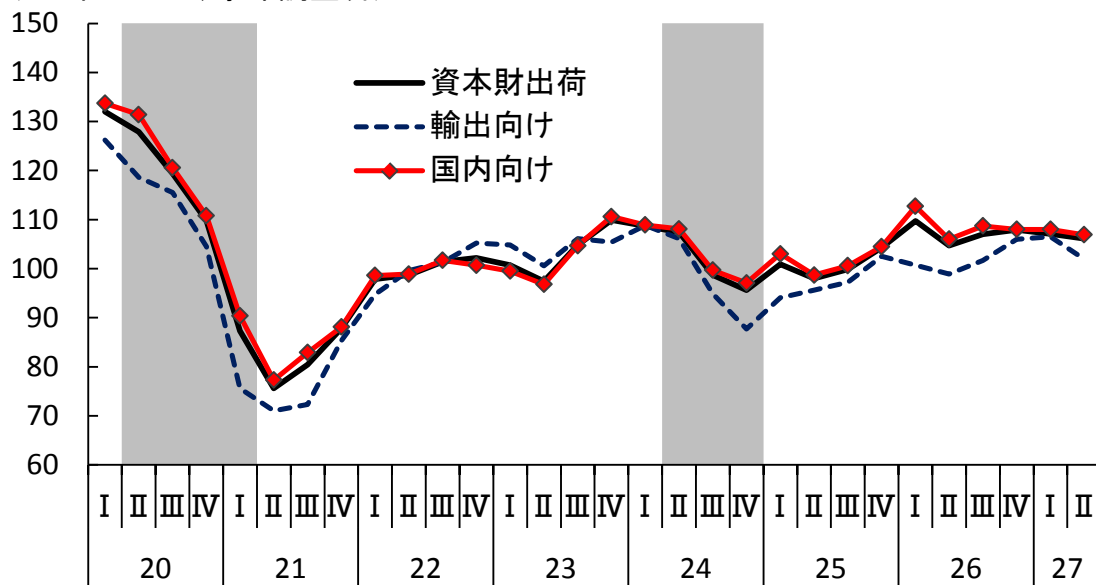
(注)シャド一部分は景気後退局面。
 (資料)経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

第2四半期の資本財出荷

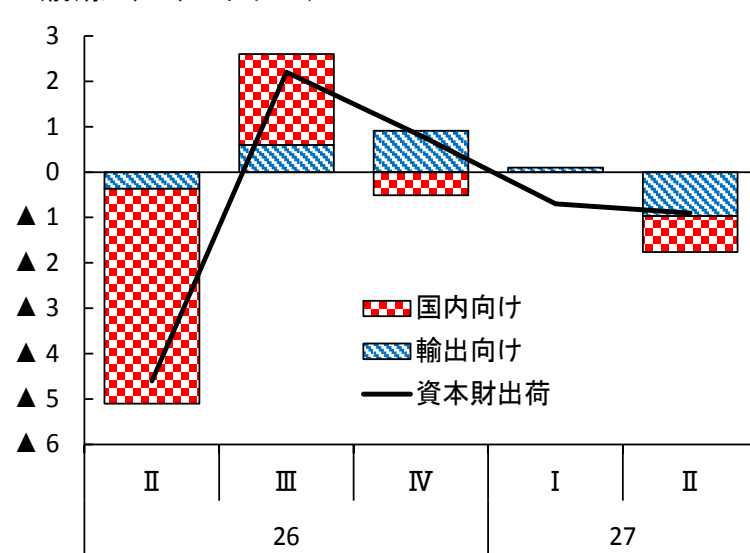
- ・平成27年4～6月期の資本財出荷は、106.1（前期比▲0.9%）と2期連続の低下。
- ・内訳をみると、輸出向けは4期ぶり、国内向けは2期ぶりの低下となっている。

資本財出荷の「国内向け」と「輸出向け」の推移

（22年＝100、季節調整済）



（前期比、%、%ポイント）



（注）シャド一部分は景気後退局面。

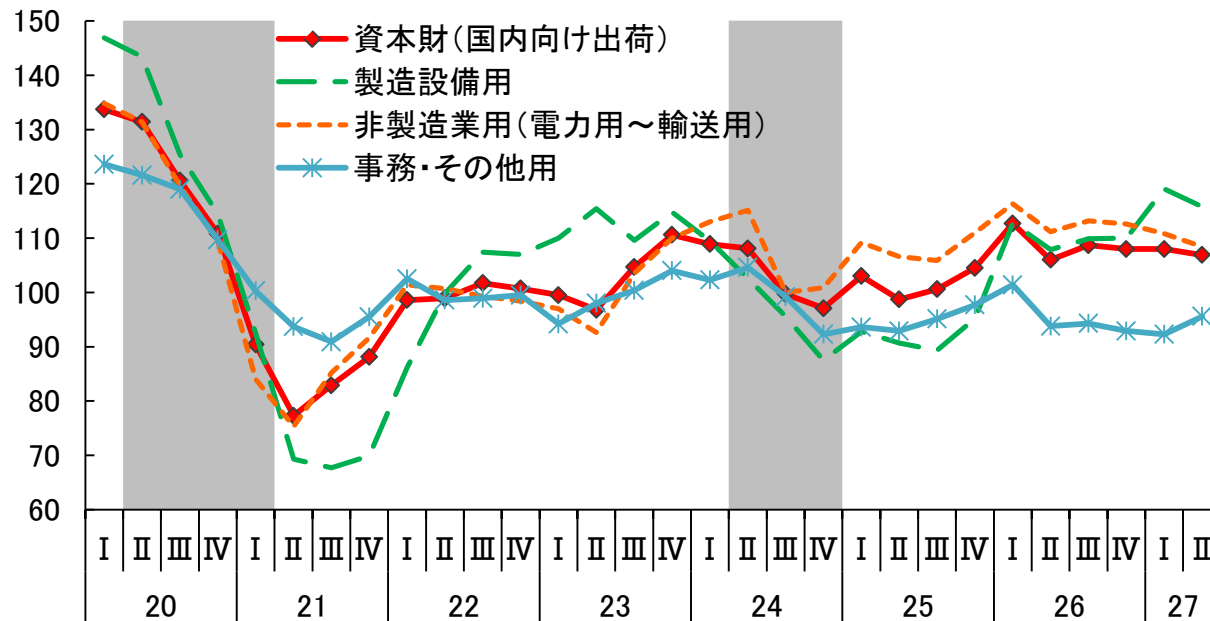
（資料）経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

用途別の資本財出荷

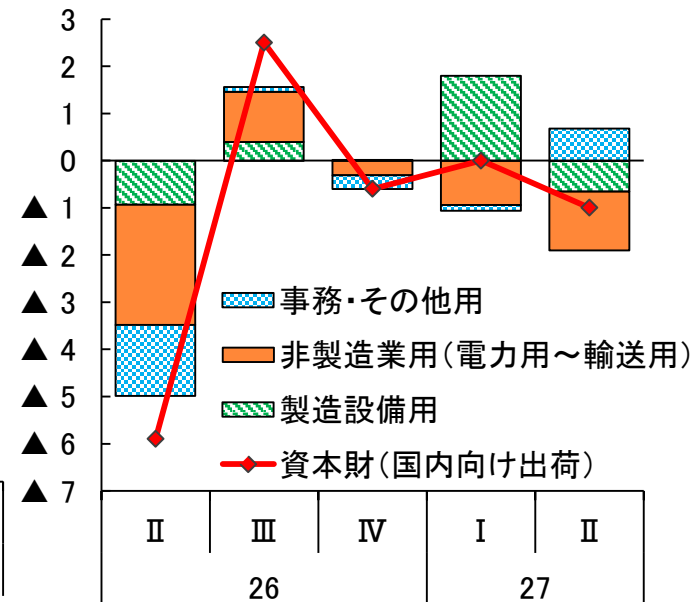
- ・平成27年4～6月期の資本財出荷「国内向け」は、106.9(前期比▲1.0%)と2期ぶりの低下。
- ・用途別にみると、「事務・その他用」は3期ぶりに上昇したものの、「非製造業用」は3期連続、「製造設備用」は4期ぶりの低下となっている。

資本財出荷「国内向け」の用途別推移

(22年=100、季節調整済)



(前期比、%、%ポイント)



(注) 1. 非製造業用とは、電力用、通信・放送用、農業用、建設用、輸送用を含む。

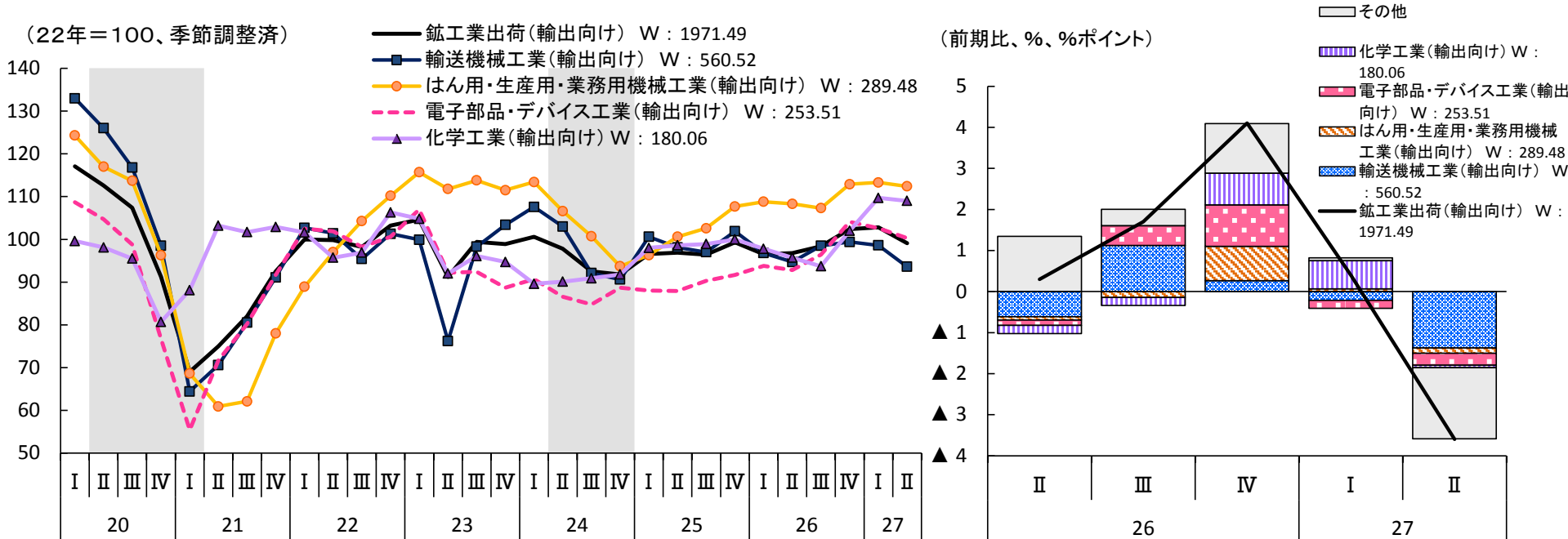
2. シャド一部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

主要業種別の輸出向け出荷

- ・平成27年4～6月期の鉱工業出荷(輸出向け)は、99.1(前期比▲3.6%)と5期ぶりの低下。
- ・内訳を主要業種別(22年基準ウエイト上位4業種)でみると、主に輸送機械工業や電子部品・デバイス工業の低下が目立っている。

鉱工業出荷(輸出向け)における主要業種別の推移



- (注) 1. その他には、鉄鋼業、非鉄金属工業、金属製品工業、電気機械工業、情報通信機械工業、窯業・土石製品工業、石油・石炭製品工業、プラスチック製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業、繊維工業、食料品・たばこ工業、その他工業、鉱業が含まれる。
 2. シャドー部分は景気後退局面。

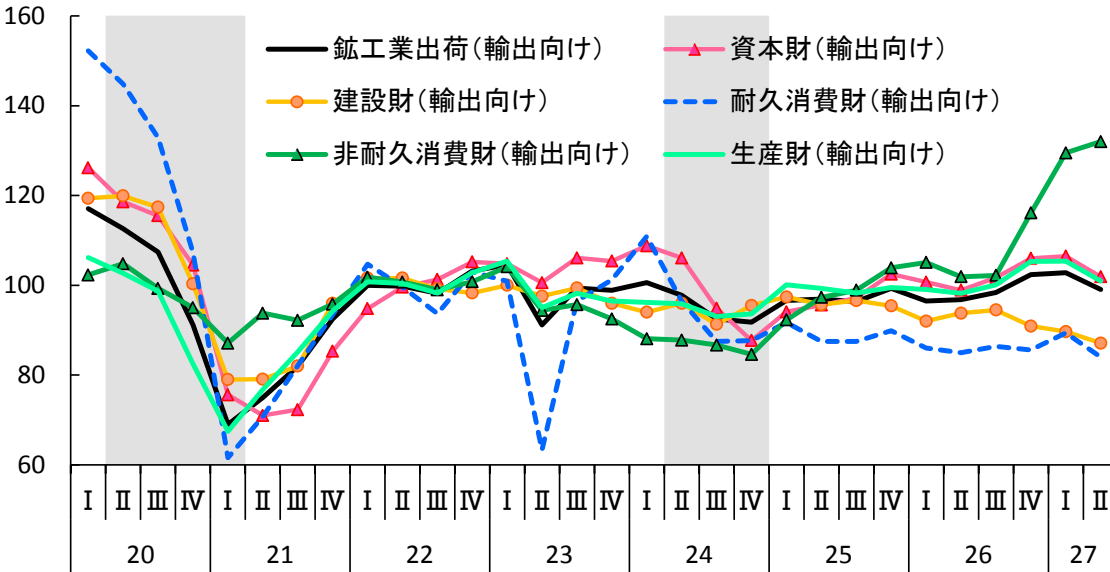
(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

財別の輸出向け出荷

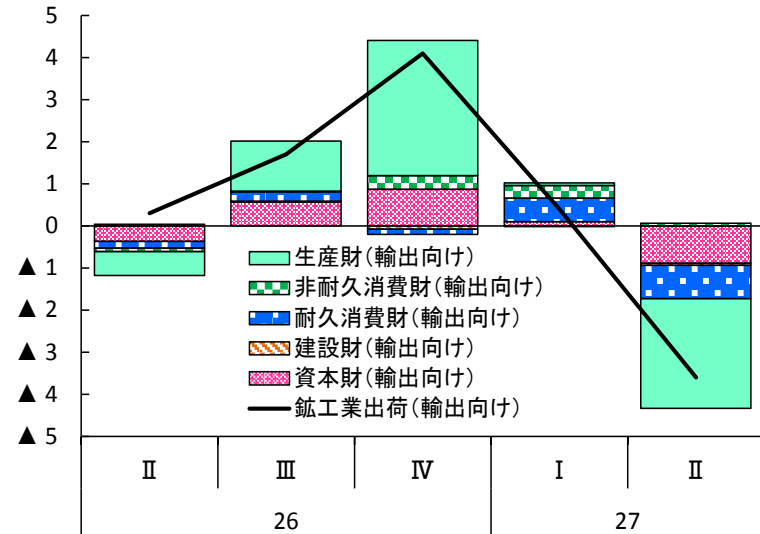
・平成27年4～6月期の鉱工業出荷(輸出向け)について、内訳を財別で見ると、特に生産財の低下が顕著であるほか、資本財や耐久消費財も低下している。

鉱工業出荷(輸出向け)における財別の推移

(22年=100、季節調整済)



(前期比、%、%ポイント)



(注)シャドー部分は景気後退局面。

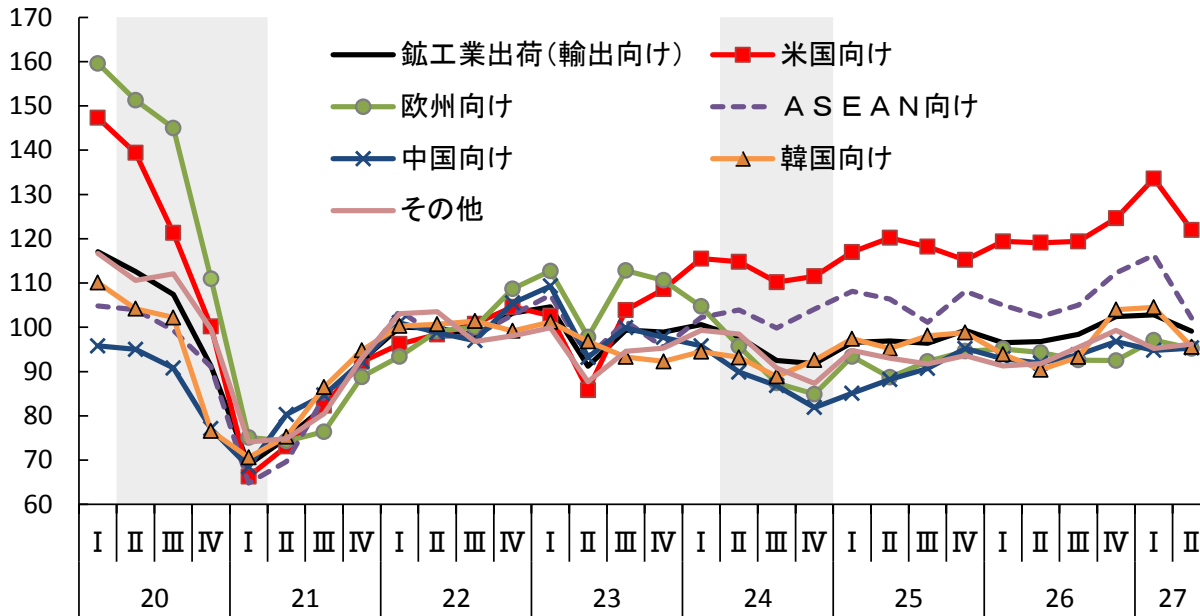
(資料)経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

地域別の輸出向け出荷

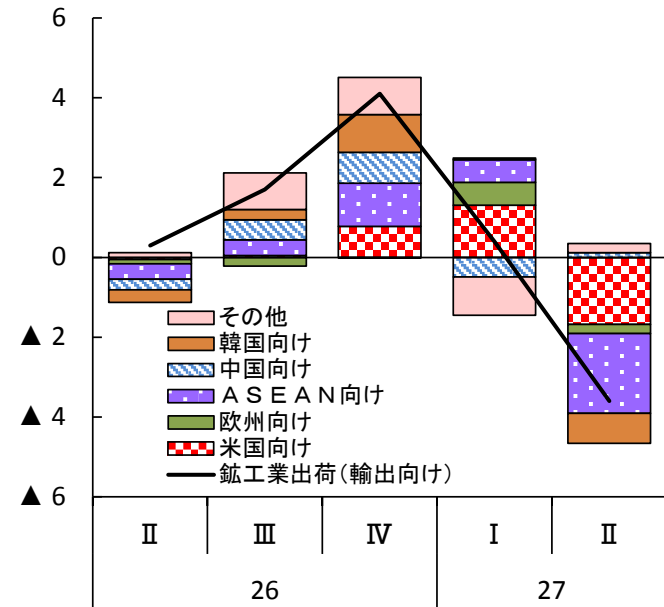
- 平成27年4～6月期の鉱工業出荷(輸出向け)について地域別で見ると、中国向けでは前期比プラスに寄与したものの、ASEAN向け、米国向けなどを中心に低下したことから、輸出全体では前期比▲3.6%となった。

鉱工業出荷(輸出向け)における地域別の推移

(22年=100、季節調整済)



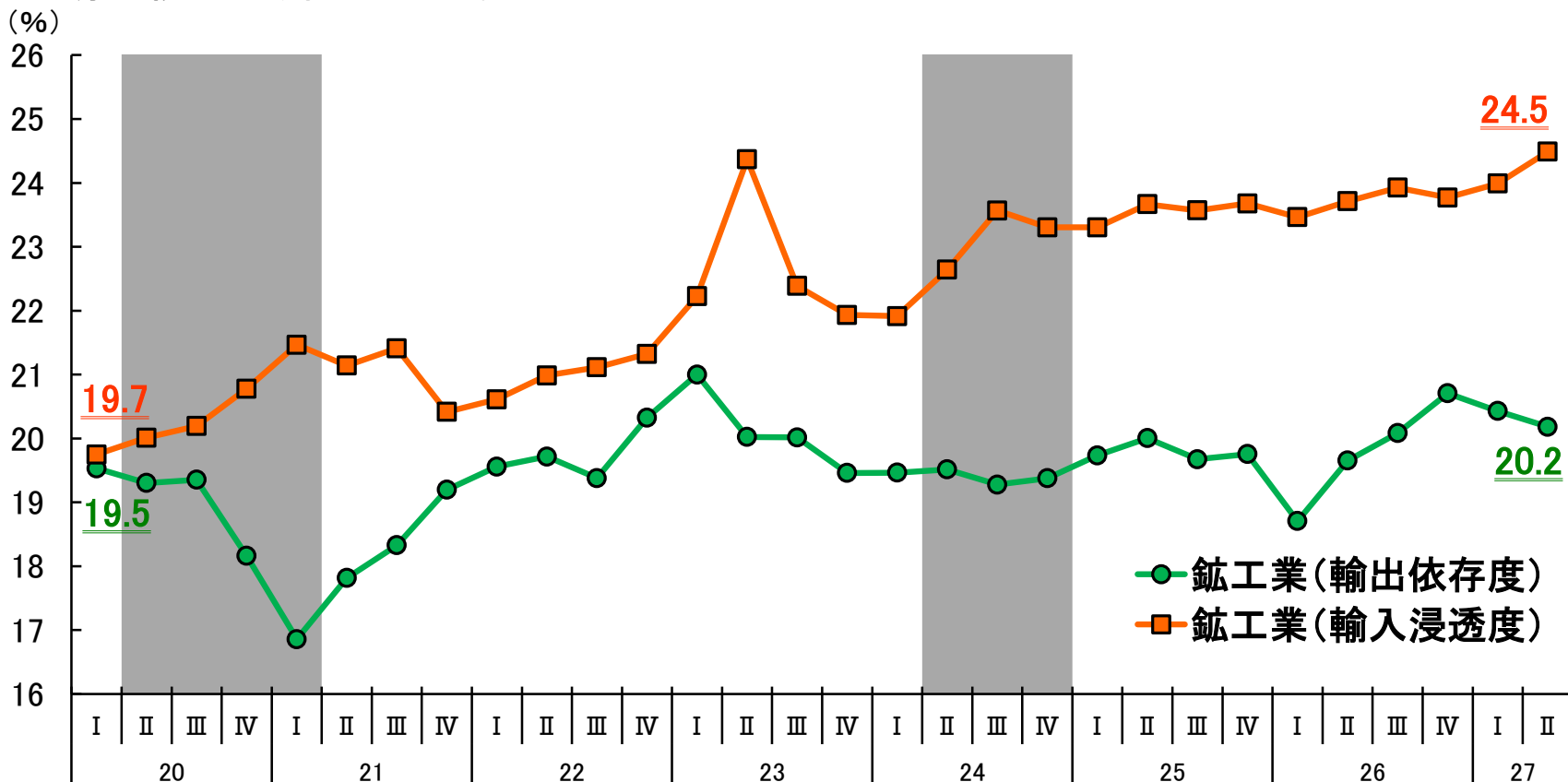
(前期比、%、%ポイント)



- (注) 1. 地域別の輸出指数は、貿易統計を出荷指数分類に組み替えて試算したものである。
 2. ASEAN向けには、シンガポール、タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、ラオス、ブルネイ、カンボジアを含む。
 その他には、台湾、中東、その他地域を含む。
 3. シャドー部分は景気後退局面。
 (資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」(試算値)。

鉱工業の輸出依存度と輸入浸透度の推移

- 平成27年4～6月期の輸出依存度は20.2%と2期連続の低下。輸入浸透度は24.5%と2期連続の上昇となった。



(注)

- 輸出依存度とは、鉱工業の出荷全体に対する輸出品の割合を示しており、以下の計算式により算出。

$$\text{輸出依存度}(\%) = (\text{鉱工業及び各財の輸出向け出荷指数} \times \text{輸出向け出荷ウエイト}) / (\text{鉱工業及び各財の出荷指数} \times \text{鉱工業出荷ウエイト}) \times 100$$
- 輸入浸透度とは、鉱工業の供給全体に占める輸入品の割合を示しており、以下の計算式により算出。

$$\text{輸入浸透度}(\%) = (\text{鉱工業及び各財の輸入指数} \times \text{輸入ウエイト}) / (\text{鉱工業及び各財の総供給指数} \times \text{総供給ウエイト}) \times 100$$

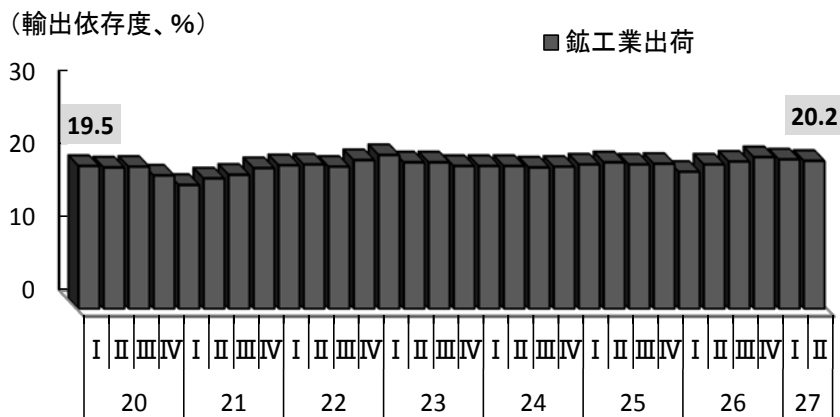
3. シャドー部分は景気後退局面。

(資料)経済産業省「鉱工業出荷内訳表・鉱工業総供給表」より作成。

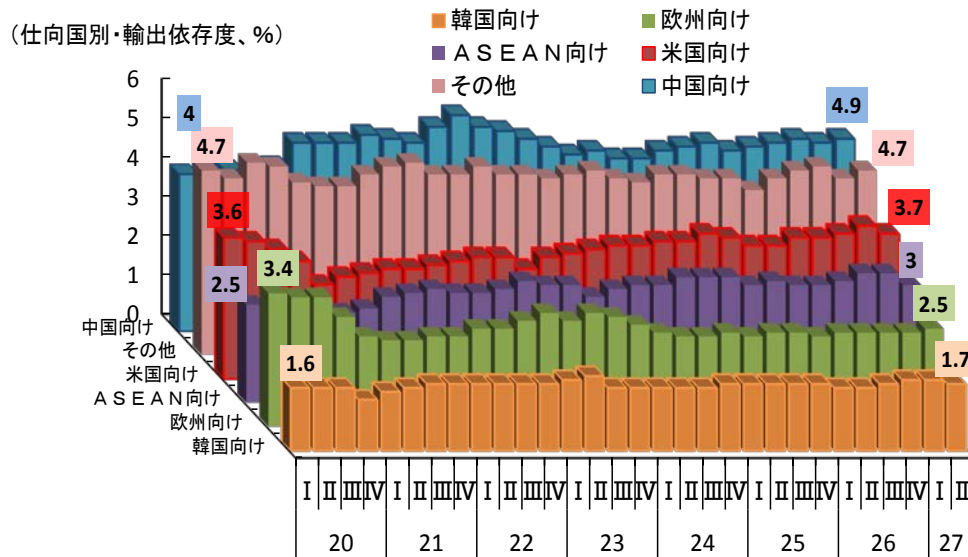
輸出依存度の動き

- 平成27年4～6月期の輸出依存度(鉱工業出荷全体に対する輸出の割合)は、20.2%と2期連続の低下。
- 仕向先国別にみると、中国向け(4.9%)は2期ぶりの上昇となったものの、米国向け(3.7%)は6期ぶりの低下、ASEAN向け(3.0%)は5期ぶりの低下となっている。

鉱工業出荷における輸出依存度の推移



仕向先国別・輸出依存度の推移



- (注) 1. 地域別の輸出指数は、貿易統計を出荷指数分類に組み替えて試算したものである。
 2. ASEAN向けには、シンガポール、タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、ラオス、ブルネイ、カンボジアを含む。
 その他には、台湾、中東、その他地域を含む。
 3. 輸出依存度とは、鉱工業の出荷全体に対する輸出品の割合を示しており、以下の計算式により算出。

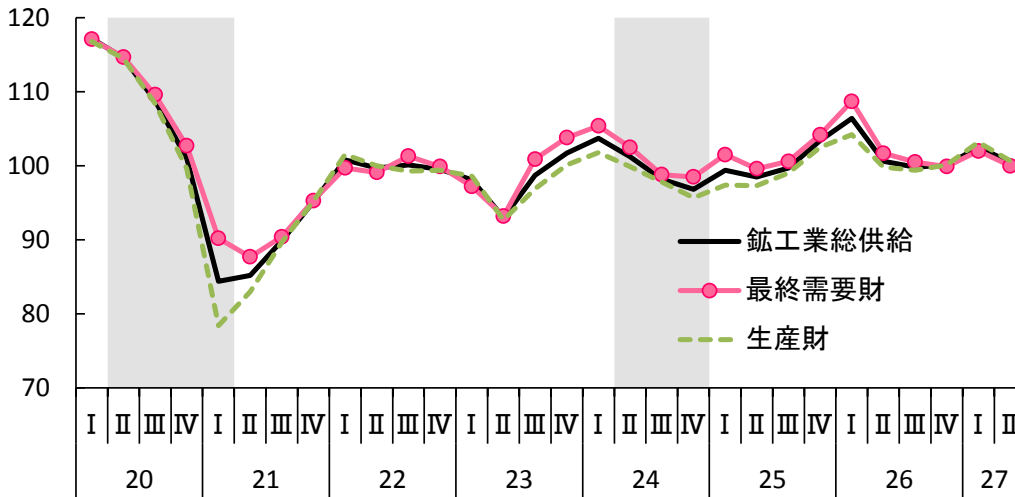
$$\text{輸出依存度 (\%)} = (\text{鉱工業及び各財の輸出向け出荷指数} \times \text{輸出向け出荷ウエイト}) / (\text{鉱工業及び各財の輸出向け出荷指数} \times \text{鉱工業出荷ウエイト}) \times 100$$

第2四半期の財別の総供給の動向

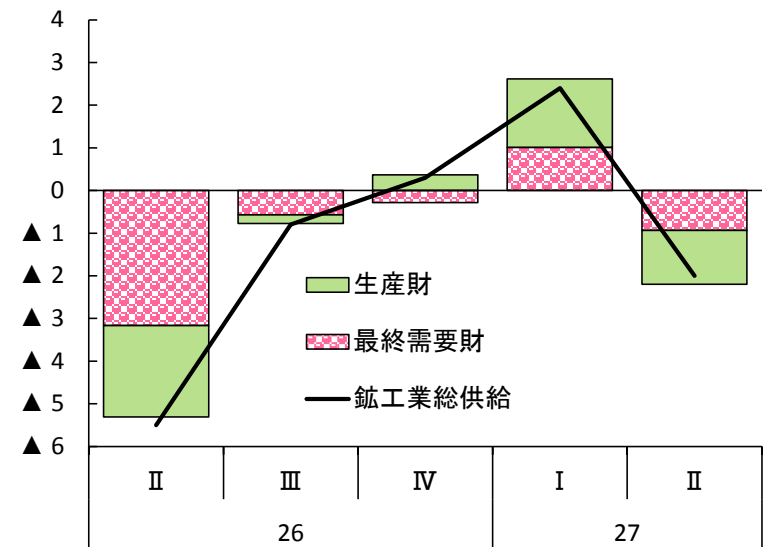
- 平成27年4～6月期の鉱工業総供給は100.5(前期比▲2.0%)と3期ぶりの低下。
- 財別でみると、生産財は3期ぶり、最終需要財は2期ぶりの低下となっている。

鉱工業総供給の財別推移

(22年=100、季節調整済)



(前期比、%、%ポイント)



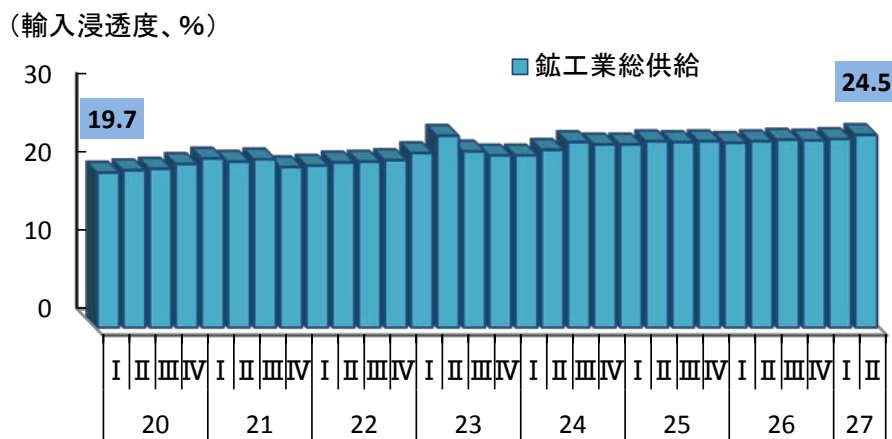
(注) シャド一部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「鉱工業総供給表」より作成。

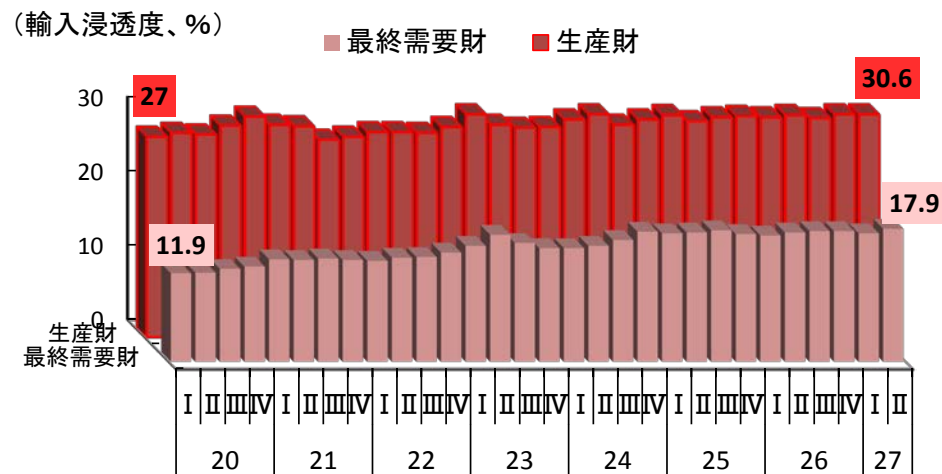
輸入浸透度の動き

- 平成27年4～6月期の鉱工業総供給における輸入浸透度は、24.5%と2期連続の上昇。
- 財別で見ると、生産財(30.6%)は2期連続の上昇、最終需要財(17.9%)は3期ぶりの上昇となっている。

鉱工業総供給における輸入浸透度の推移



財別による輸入浸透度の推移



(注)輸入浸透度とは、鉱工業の供給全体に占める輸入品の割合を示しており、以下の計算式により算出。

$$\text{輸入浸透度}(\%) = (\text{鉱工業及び各財の輸入指数} \times \text{輸入ウエイト}) / (\text{鉱工業及び各財の総供給指数} \times \text{総供給ウエイト}) \times 100$$

(資料)経済産業省「鉱工業総供給表」より作成。